

保護司会だより

黒松

第71号

令和2年12月5日発行
柏崎刈羽地区保護司会
TEL(0257)23-8615
柏崎市豊町3-59
総合福祉センター内

犯罪に戻らない・戻さない

～立ち直りをみんなで支える明るい社会へ～

犯罪や非行のない明るい社会の建設を願って

米山夕照〔柏崎市橋場〕撮影／保護司 佐藤俊男 (2020.10.9)

「言葉」

言葉は 人と人をつなぐ

ひと言だけで 明るくなり

ひと言だけで 暗くなる

言葉は魔法

正しく使えば

たがいに楽しいし 気持ちがいいけど

間違えば

自分も相手も傷ついて 悲しくなる

言葉はむずかしい

けれど 毎日使うもの

大切に使う

言葉とをもって なかよくなりた

社会を明るくする運動



学校の安心・安全について

柏崎地区高等学校長会

熊倉 肇

柏崎刈羽地区保護司会の皆様には、日頃犯罪の防止と立ち直りの支援についてご尽力されていることに敬意を表するとともに、青少年の非行防止に取り組んでいただいていることに感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症による影響は、学校だけではありませんが、学校も昨年度末から臨時休業や、学校再開後も行事や大会の中止など、大きな影響を受けています。当たり前だった学校生活、授業や部活動が当たり前ではなくなりました。感染拡大を防ぎ健康を守ることを優先しての休業でしたが、授業や

部活動等の学校の教育活動は、安心・安全が前提になっていくということを改めて感じました。

また、感染症に関連して、感染した人や医療関係者などに対する偏見や誹謗中傷などの人権侵害があることが報道されています。言うまでもなく、このようなことはあってはならないことで、学校でも生徒に話をしています。

学校では、感染症の防止だけではなく、いじめの防止も課題の一つになっています。いじめも誹謗中傷も同じく人権にかかわる問題です。学校では人権教育を行っていますが、

人権が守られ、安心・安全な学習環境とその環境は皆で保つということの認識を深め、学校以外の生活でも実践できるよう取り組んでまいりたいと考えております。保護司会の皆



愛の協力運動会員募集の御礼

柏崎刈羽地区保護司会

会長 佐々木 誠一

柏崎刈羽地区で犯罪の起きない地域づくりそして、みんなが安心して生活のできるような地域づくりは、誰もが願っていることであります。

柏崎刈羽地区の「社会を明るくする運動実施委員会」でもこのような事業を推進するにあたっては、市、村が一体となって取り組まなければなりません。

このような背景を踏まえ、令和2年も「第70回社会を明るくする運動」中で、愛の協力運動会員募集を展開させていただきました。令和2年はコロナウイルスのために、十分な活動ができないところ、市民、村民の

様には、訪問いただく際などに、地域の状況をお伺いできれば幸いです。



皆様のご協力により、約430万円という尊い浄財をいただきました。

皆様からいただいた浄財は、全額新潟県保護観察協会に送金し、その後配分を受けます。この浄財の使途につきましては、犯罪のない街づくりのための活動と、非行に陥った多くの少年や、罪を犯した人々の一日も早い更生事業のため、犯罪予防活動、刑務所、少年院などの視察、研修会、機関紙発行などのために使わせていただいています。

愛の協力運動会員募集にご協力いただきましたまして、心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症を

拡げないために

柏崎保健所長 永瀬吉彦

1 新型コロナウイルス感染症は
何故影響が大きいのか。

①感染力が強い ②症状が出る前
から感染させる力がある、無症状の
患者から感染する ③唾液中にウイル
スが多い ④患者に対する差別・偏
見が強い ⑤経済に大きな影響があ

る、などによるものです。

2 クラスターとは小規模な患者
の集団です。これまでの国内の複数
箇所が発生した事例として以下のも
のが有名です。

①院内感染クラスター ②昼カラ
オケクラスター ③職場会議クラス

令和2年 春の褒章

藍綬褒章 眞貝 行雄

令和2年度 各種表彰者名 (2020.10.29)

- ・全国保護司連盟理事長表彰 多田 誓
- ・関東地方更生保護委員会委員長表彰
井倉 久美子、春川 稔
- ・関東地方保護司連盟会長表彰
浅野 泰彦、小林 知明、星野 広栄
- ・新潟保護観察所長表彰
石塚 道宏、森 高志
- ・新潟県保護司会連合会長表彰
神林 均、田村 真、佐々木 恵一郎
- ・関東地方更生保護女性連盟会長表彰
酒井 美代子
- ・新潟保護観察所感謝状授与者
会田 弘子、会田 照美、高野 八千代
- ・新潟県更生保護女性会連盟会長表彰
馬場 清子、山崎 悠紀子、村山 由紀子

保護司の異動

よろしく申し上げます。

新任 名塚 美 幸 (刈羽村上高町)

換気は行われてい
ないため、これら
の対策は必要です。
②密集とは人が
たくさん集まった
り、少人数でも近
い距離で集まるこ
とです。密集の対
策は、いろいろな
施設に行く場合で
も、他の人と互い
に手を伸ばしても
届かない距離を保
つようにすること

ター ④スポーツジムクラスター
⑤接待を伴う飲食店クラスターなど
3 クラスターの発生を防止する
ためには、三密を避けることが大切
です。三密とは、密閉、密集、密接
から名づけられた言葉です。

①密閉とは窓がなかったり換気が
できなかったりする場所のこと
です。密閉の対策は、窓がある場合は
風の流れができるように、窓やドア

を1時間に2回以上数分間開けるこ
とが大切です。家庭用エアコンでは

です。

③密接とは互いに手が届く距離で
会話や発声、運動などをするこ
とです。密接はどんな場面でも起こりえ
ます。密接の対策は、会話、発声、
運動などの際に、十分な距離を保ち、
マスクを着用することです。もちろ
ん、運動をグループではなく少人数
で行う、会話をリモートで行うなど
も対策となります。

新潟県は全国的にみてこれまで患
者数は少なく抑えられています。こ
れからも保健所、市村、学校、医療
機関、福祉施設、事業者などが連携
して「新しい生活様式」を実践し、
みんなで感染しないさせないための
取組を行っていくことが必要と考え
ます。

これから寒い季節がやってきま
す。毎年流行するインフルエンザに
も注意する必要があります。

新型コロナウイルス感染症の流行
を抑えながら、経済や社会活動を元
に戻し、コロナと共存する「ウィズ
コロナ」の時代を工夫しながら乗り
越えていきましょう。

シリーズ

随想



人はみな生かされて
生きていく……

五島つばき

ひまわりの譜とともに15年、そして金原明善へ

2005年4月1日、日本クラウンレコードから「社会を明るくする運動」の応援歌「ひまわりの譜」が発売されました。

この曲が私、五島つばきのデビュー曲になります。高校卒業後、長崎県五島市から上京し、歌手になるためのレッスン、アルバイトの日々が8年を過ぎた頃でした。師匠である作曲家聖川湧先生からの連絡は「ひまわりの譜」を歌ってくれないか……。当時、私は演歌歌手を夢見て、レッスンを受けていました。保護司さんが作詩されたという曲を初めて聞いた時、「この歌を歌い続けていけるのだろうか」と、デビューが決まった喜びよりも、不安な気持ちが大きかったのを思い出します。

そして、この時初めて保護司さん方の存在、更生保護を知ることになったのです。

デビュー後、まず全国の保護観察所の表敬からスタートしました。

50か所の表敬は2年半ほど掛かりました。そこで、保護司さん方とお会いし体験談をお聞きするたびに、保護司さんの思いや更生保護の大切さを、歌を通して一人でも多くの人に伝えていきたい、この

気持ちが強くなってきました。

「薬物のフラッシュバックに苦しむ対象者の、身体の震えが止まらない」。

広島県保護司さんのお話です。

「この子のためにできることは何なのか…。その子と一緒に10時間何も食べず、ただただ家の隅でその子を抱きしめていましたよ」。

自分の家族ならまだしも、他人にこれだけの愛を注ぐ。普通はできないことだろうと驚きました。

「ひまわりの譜」発売開始後、歌はひとり歩きしていきます。

広島から始まり、福岡では踊り付きなど、各地の「社会を明るくする運動」での合唱が広がり、全国の警察音楽隊や中学校・高校の吹奏楽部ともジョイントしました。そして、今では小学生や幼稚園の園児も一緒に歌ってくれています。

「ひまわりの譜」発売から12年が過ぎた2016年5月25日に、私は保護司を拝命し、今強く思うのは青少年の健全な育成です。

思春期の子どもたちと一緒に、思いやりや支え合う精神を歌うことで、子どもたちの将来にそれが少しでもつながってくれたり、明るい未来が待っているのではないかと…。

子どもたちの真っ直ぐな声と温かい音が家族に、社会に広がって行くよう常に願いながら歌っています。

虐待を受け愛に飢えている子どもたちの施設で応援歌「君への伝言」を歌った時、キラキラした目で私の周りに円を作り、「君はひとりじゃない」と合唱する姿に、涙をこぼせることができない、そんな温かい時間もありました。

改めて、歌のチカラですごくいですね…。

また、更生保護を語る「ラジオひまわり」のパーソナリティも2年間務めました。

深夜の時間帯、保護司さんの体験談を紹介しながら、更生保護の大切さを一緒に考えていく番組です。

リスナーからのたくさんのお便りに、「思いを共感してくださいね。の方がこんなにいらっしやるのだ」と自分の励みにもなりましたね。

2019年9月4日、「金原明善」のCDを発売。

作詩は長年保護司としても活動された講師の一龍齋貞花師匠。更生保護の父として私財をなげうち更生保護施設をつくった金原明善氏、川村矯一郎氏、そして、川村養助氏など、更生保護事業に力を注いだ市井の偉人の熱い思いを一般の方にも知っていただけるよう、心を込めて歌ってまいります。

今の私の目標は、演歌歌手・五島つばきとして大きくなること。同時に、私を知ってくださった方に、更生保護の大切さを伝えていくことです。

これからも続くこの道。

「人はみな生かされて生きてゆく」。子どもたちと歌いながら、そして、自分自身も噛みしめながら、これからも学び続けていきます。

「社会を明るくする運動」の応援歌を歌うことを、ライフワークとして…。

(五島つばき・歌手／保護司)



情報社会と人権について

柏崎人権擁護委員協議会 会長

雅 樂 隆 伸

新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、パンデミック各国での対応に追われている今日この頃です。一日も早くその対応が進み、安心できる生活を取り戻せることを願っている今日この頃です。

「インターネットを悪用した人権侵害に注意!」、近頃はこのような見出しにお気づきの事と思います。インターネットにはWEB(ウェブ)上での、掲示板やSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などコミュニケーションの輪を広げる機能があります。そして、パソコンだけでなく、スマートフォンでもその利用が進む一方で、その利用に際して、他人の人権を侵害してしまふ事件が発生しており、新聞・放送のメディアでも取り上げられています。安易な書き込みで他の人の人権

を傷つけない為に、インターネットでは不特定多数の人がその情報を利用し、また拡散する事が出来るなどの特性を理解した上で、インターネット上で起こりうる人権侵害について理解を深め、ルールやモラルを守って利用することが大切です。

平成31年及び令和元年(2019年)中に法務省の人権擁護機関である全国の法務局・地方法務局が処理したインターネットを利用した人権侵犯事件の数は1,877件となりました。特定の個人について、根拠のないうわさや悪口を書き込むなどして名誉毀損に当たる事柄や個人情報や私生活の事実に関わる内容などを本人に無断で掲載するといったプライバシー侵害に関する事柄が、全体の約8割を占めています。インターネットで他人の個人情報

を流したり、誹謗中傷(ひぼうちゅうしよう)や無責任なうわさを広めたりすることは人権侵害につながります。

「人権侵害」と言う言葉は、世間々に時々使われていますので、人権が大切であることは誰しも知っていると思います。しかし、具体的な事案に当たったとき、これも人権侵害に当たると改めて気づかされることも多いのです。そしてその内容も多様で、その都度考えさせられる事が多いと思います。

とりわけ、情報社会である今日は、様々な事案が見られます。新型コロナウイルス感染症のPCR検査で陽性になった人が取り沙汰され、不確かな情報に基づき、その事件の関係者とされる人たちの個人情報を流す書き込みがされた、誤った情報に基づき全く関係の無い人々を誹謗中傷する書き込みがされたりしています。

人権については、このようなことだけでなく、他にも大切なことが沢山あるのですが、人権侵害の被害を

受けた方は、法務局の窓口や、電話相談、インターネット相談の方法がありますので、ご利用ください。

みんなの人権110当番

0570-0003-110

子供の人権110当番

0120-007-110

女性の人権ホットライン

0570-070-810

外国語人権相談ダイヤル

0570-090-911

法務省インターネット人権相談受付窓口

<https://www.jinken.go.jp/>





保護司の一言

我が家の犬

保護司 阿部 和雄



我が家には犬が2匹います。どちらもミニチュアダックスフンドです。1匹は茶色のオスで14歳、カンガルミみたいな顔をして、名前は「レオン」と言います。もう1匹は黒色のメスで10歳、子熊のような顔をして、名前は「さくら」と言います。

「レオン」は、平成18年に実家の弟が犬を買いに行くのに付いていった妻が「可愛かったから・・・」と言って家に連れて帰ってきました。

私も犬好きで子供の頃に2回飼ったことがあります。だから、この時も大歓迎でしたが、まだ現職だったので、ほとんど犬の面倒を見ることはありませんでした。

それでも、ソファアに胡坐をかいてテレビを見ていると、その中に入っている。寝る時は私と一緒にいた様子で、なぜか家族の中で私が一番懐きました。

そんな中、妻は「私が面倒を見ているのに自分のところには来ない」と言っていて不満をこぼしていました。

平成22年、ホームセンターに買い物に行った妻が、「売れ残っていたから連れてきちゃった」と言っていて、黒い犬を抱えて帰ってきました。それが「さくら」です。さくらは私のところに来ようとすると、レオンが焼きもちを焼いて邪魔するので、妻に懐くようになりました。

2匹の犬を飼いだめた頃は7人家族でしたが、3人の子供はそれぞれ独立して家を出て、80代の両親と私たち夫婦だけになりました。レオンとさくらが、孫や子供のような存在であり、毎日の生活に変化を与えてくれます。2匹とも高齢になりましたが、このまま元気で長生きしてほしいと思う今日この頃です。

更女活動の報告



柏崎刈羽地区更生保護女性会
会長 酒井 美代子

子どももまもなく暮れようとしています。「コロナと猛暑」、自粛しながらも何か追いついてもらえるように日々を過ごしてきたように感じます。

柏刈地区更女会においては、前半の活動が殆どできない状態が続きました。そんな中、少し動きがありました。なのでお知らせいたします。

例年7月下旬の少年学院臨海訓練が中止になったことを受け、代わりに「何か？」と考え、マスクを寄付することにいたしました。7月21日学院を訪問し、学院生に使ってほしいとの想いを伝えながらお渡ししま



した。学院長と担当の先生から受け取っていただきました。(写真)

年の後半に入り、会員の活動も少しずつ始まり、ミニ集会も行っております。また、少年学院や市内施設にお届けしたいとの気持ちから雑巾作りを行っております。総会や研修会、交流会も見合わせ、会員皆様にご参集いただく機会がなく、心苦しく思っております。来年は心おきなく諸行事や活動が行われることを願うばかりです。

昨年実施の育成委員会と保護司会との合同研修会の講師、三宅晶子さんから近況のお手紙と共に、少年院、刑務所等専用求人誌『チャンス!!秋号』が届きました。「コロナの影響により各社の採用の条件は厳しくなっています。それでも本当にやり直したい、是が非でも御社で働かせて頂きたい、という謙虚で熱意のある方は採用され続けています。」そして「一人でも多くの人生の背中を押せるよう努力していく」と結んでおられます。我々も応援していきたいと思っております。



「越後バナナ」から生まれる循環

シモダ産業株式会社 常務取締役

霜田 真紀子

なぜ雪国なのにバナナ栽培か。きっかけは当社社長の2つの思いでした。それは、自社の焼却施設の排熱利用という課題と、南国で食べたいという夢です。

その課題と夢のもと、令和元年8



月から自社農園のシモダファームにてバナナの栽培をスタートしました。現在、「越後バナナ」というブランドで、県内を中心に出荷をしております。

シモダ産業(株)は今年で創業70年。製造業と産業廃棄物処理業を営む企業です。鋳物砂を製造し、使用後の鋳物砂を回収して再生利用する事業を行っており、当時から「循環・環境」を軸に事業を展開してきました。

さらに平成30年には、産業廃棄物の焼却施設を立ち上げました。同時に、焼却炉の熱を有効活用するために農業ハウスを建設しようというプロジェクトが立ち上がり、シモダファームの設立に至りました。

焼却炉を冷やすための冷却水は90℃近くの温水となります。通常、

その温水はそのまま蒸発してしまいます。シモダファームでは、その温水を利用してハウスを温める熱循環のシステムを考えました。「循環」はそれだけではありません。

小さかったり傷がついたりした「越後バナナ」は規格外品となりますが、味も食感も正規品と変わりません。この規格外品を地域の菓子店や飲食店で加工し、商品化して頂いています。このことによって、微力ながらも地域経済の循環や、食品ロス削減に繋がることを目指しています。

また、バナナを収穫した後の株は伐採します。同じ根の子株を育てるためです。シモダファームでは伐採した株を廃棄処分せずに、門出和紙様で「越後バナナ和紙」として再資源化して頂く取り組みを進めています。

そして今年9月から、地域のお子様への総合学習支援をスタートしました。シモダファームの活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の視点で環境や地域について一緒に

考え、SDGsが一人ひとりにとって身近な課題と目標。このことが10年後の2030年、さらにその先の地域の未来に繋がることを願っています。

まだシモダファームの活動は始まったばかりです。皆様に満足して頂ける「越後バナナ」を育てていくと共に、地域の方々と一緒に、環境・経済・社会の循環によるサステナブル(持続可能)な取り組みを続けてまいります。

あとがき

今年はコロナ禍に翻弄された一年でした。一時は収束の方向もみえ人の動きが再開したとたん第三波の到来かといわれています。人の動きも内向化し、SNSやネット、通販が盛況です。犯罪や非行も減ってくればいいのですが、柏崎でも遺体が半年も発見されないような事件もあり、他者の動向に配慮する余裕がなくなっているようです。人間は「人と人の間で生きるもの」コロナ禍で暖かい思いやりを失うことなく、明るい社会の実現を願うばかりです。